

# 長野市観光振興計画 令和4年度 年次事業計画の事業評価 (要旨)

資料3

(※令和4年度の個別の実施内容をまとめた「実施事業」ごとの評価になります)

## 重点政策における主な取組内容の実施計画

### 政策1 地域資源を最大限生かした誘客

政策	施策	実施事業	事業評価
1-1 地域資源を活用した魅力的で多様なコンテンツの創出と流通促進	(1) 地域資源を活かしたコンテンツ開発の支援	①歴史、伝統、文化、自然を生かしたコンテンツ開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間と連携した旅行ツアーなどコンテンツの造成が進んでおり、今後は更なる連携とコンテンツの磨き上げが必要になってくる。</li> <li>・各地区の地域資源を活かしたコンテンツを開発に着手できた。特に松代地区では、真田信之松代入部400年記念事業もあり、歴史や文化を活かしたコンテンツを造成することができた。その一方で、開発したコンテンツを、どのように周知し、販売に結び付けていくか、プロモーションの仕方に工夫が必要となってくる。</li> <li>・Eバイクを活用したコンテンツが中山間地を中心に広がっており、今後はこれらを結び付けた展開や、ガイド付きなど付加価値を付けた販売、利用してもらうための仕掛けづくりを進めていく必要がある。また、地域の歴史や文化を知っていただく体験なども取り入れたコースづくりが求められている。</li> </ul>
		②「旅マエ」「旅ナカ」「旅アト」での地域人材とのつながりを活かしたコンテンツ開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの規制緩和により、今後、ガイドや体験など、人とつながる旅の需要が高まってくると思われる。そのため、引き続き、そこでしか体験できないコンテンツ開発が重要になってくる。</li> <li>・飯綱高原での冬のコンテンツ開発では、市が指定管理者と連携し、こたつで冬キャンプや雪板コンテンツなど新しいアクティビティの造成ができた。また、フード分野では、地元の食材を活かしたメニュー開発に取り組み、市長がプロデュースする「スープカレー」など新メニューを開発することができた。今後は、この成功事例をモデルとして、他地域にも取り組みを広げていくことが求められる。</li> </ul>
		③地産地消や地域産品、地域産材を活用したコンテンツ開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消、特産品を使ったコンテンツ作りについては、松代地区、戸隠・飯綱地区で商品化する事ができた。今後、商品について認知度を高めるよう情報発信していくとともに、定着化に向け、お客様の反応を見ながら改良していくことが求められる。</li> <li>・松代で開発したクラフトビールについては、一定の定着化が達成できた。今後は地域全体で活用して行けるように、地元と連携を図りながらPRやメニューの拡大に努め、さらなるブランド化を図っていく必要がある。</li> </ul>
		④ワーケーションを促進するコンテンツの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス感染症により、働き方にも新しいスタイル取り入れられるようになってきている。今後のニーズを把握しながら、ワーケーションで訪れた方たちに楽しんでいただけるようなコンテンツ開発を進めていくことが重要である。</li> </ul>

## 政策 1 地域資源を最大限生かした誘客

政策	施策	実施事業	事業評価
1-1 地域資源 を活用した 魅力的で 多様なコン 텐츠の創 出と流通 促進	(1) 地域資源を活か したコンテンツ開 発の支援	⑤令和元年東日本台風災害被災地の復興、活性化のためのホープツーリズムの推進	・災害からの復興途中であり、気持ちの整理が出来ていない住民の方もおられるので、気持ちの寄り添いながら事業を進める必要がある。ホープツーリズムには、地元の協力が不可欠であり、地域と連携しながら受け入れ態勢の支援も含め、教育旅行などのコンテンツ開発を検討していくことが求められている。
		⑥アウトドアやスポーツ、文化芸術などを切り口としたコンテンツ開発	・文化芸術など、これまで実績のあるコンテンツを、引き続き、実施していくとともに、庁内各課、観光事業者と情報を共有しながら有効活用していく必要がある。また、本市のプロスポーツチームと連携を図り、観光コンテンツとして検討していく必要がある。
		⑦広域連携でのコンテンツ開発	・コロナ禍で関心の高まったサイクルツーリズムにより、近隣市町村と連携を図りながら、広域でのコンテンツ開発をすることができた。今後は、インバウンドを含めたニーズを取り入れながら、効果を検証しながら事業を進めていく必要がある。
	(2) 観光コンテンツの 提供体制の構築 と広域連携	①ビューロー、各観光協会の連携によるコンテンツ販売体制強化	・各地区で造成されたコンテンツを単独ではなく、広く販売していくため、ながの観光コンベンションビューローと各観光協会の連携を密にしていく必要がある。各観光協会が開発したコンテンツを載せるO T Aページを構築するなど、長野市全体で販売体制を構築していく必要がある。
		②観光人材の育成、プロガイドの養成	・観光の満足度を左右するガイドの育成は今後さらに重要になってくる。戸隠では、ニーズに対応したガイド養成や研修会の実施など質の向上が図られている。今後は、ボランティアガイドの育成とともに、対価に応じたサービスを提供できるプロガイドの養成ができる体制をニーズに応じながら構築していく必要がある。
		③広域連携による効果的な情報発信、プロモーション	・発信力のあるユーチューバーやインスタグラマーを招請し、動画による情報発信を実施した。引き続き、ターゲットの特性を踏まえた人選を行い、最近の主流となりつつある、ショート動画による配信など、効果的なプロモーションを図る必要がある。  ・北陸新幹線の延伸を見据え、沿線都市と連携を図り、情報発信や相互イベントへの参加などを通じて、都市間の交流を深めるとともに、誘客を図るためのプロモーションが必要となってくる。
	政策評価		<p>・Eバイクの活用やアウトドアコンテンツなど、新たな観光スタイルに対応したコンテンツが造成されてきている。開発されたコンテンツをニーズに合わせて磨き上げていくとともに、どのように周知し、実際の販売に結び付けていくかプロモーションの強化が重要になってきている。また、自然や歴史、文化財等を活用した、長野市でしか体験できないコンテンツの開発が求められており、ガイド付きツアーや宿泊プランと組み合わせた高付加価値商品の開発を進めていくことが重要となる。</p>

## 政策 1 地域資源を最大限生かした誘客

政策	施策	実施事業	事業評価
1-2 地域を守り 未来へつ なぐ観光 振興	(1) 観光を通じた歴史・ 文化、自然資源の 保全と情報のシェア (価値の伝達と共 有)	①まち並みや里山などの景 観の保全及び観光コンテン ツ化	・中山間地で収穫体験を組み込んだコンテンツが造成されているなど、その地域の歴史や自然や文化を体験できるコンテンツが でき始めている。今後は、それらの取り組みを磨き上げ、プロモーションしていくとともに、受け入れ態勢の強化に取り組んでいく必 要がある。
		②歴史・文化、伝統産業 (地場産業)の保全活動 の観光コンテンツ化	・伝統文化や伝統産業は、地域の貴重な資産を次の世代につなぐ意味でも、サステナブルな観光資源としての価値が見出さ れている。それらの保全を目的とした取り組み自体が観光コンテンツとして活用されるように、先進事例などを参考に検討してい く必要がある。
	(2) 観光における温室 効果ガスの排出 抑制	①Eバイクを活用したサイク リングコースの開発	・環境に配慮したサステナブルな観光は、今後、インバウンドが回復する中で、さらに重要になってくる。インバウンドにも人気の 高いサイクリングコースを造成するとともに、ターゲットを絞り込んだ情報発信が必要となってくる。
		②自転車や徒歩によるまち なか観光が楽しめる空間 整備	・環境に配慮しながら自転車や徒歩による、まちなか観光を楽しめる整備が検討されている。Eバイクを活用したサイクリング コースの造成などと合わせ、周知していくことにより利用促進が図られると思われる。
		③観光関連事業者への ゼロエミッション普及・啓発	・持続可能な観光は、世界的な潮流であり、選ばれる観光地となるためには必要不可欠な取 組みとなる。先進事例等を研究しながら、コンベンションビューローや各観光協会と連携しながら、関連事業者への講習会の 開催など、引き続き、普及啓発に努めていく必要がある。
	政策評価	<p>・持続可能な観光は、世界的な潮流であり、選ばれる観光地となるためには必要不可欠な取り組みとなる。 中山間地域では、収穫体験や保全活動などが観光コンテンツになりつつあり、これを販売する事業者などと連携して商品化を検討してい く必要がある。また、温室効果ガス抑制の観点から、自転車や徒歩によるまちなか観光が楽しめる整備が進んできており、コンテンツ開発と合 わせて周知、啓発していくことが求められている。</p>	

## 政策 1 地域資源を最大限生かした誘客

政策	施策	実施事業	事業評価	
1-3 コミュニケーションを通じたファンづくり	(1) ファンづくり、周遊促進に向けたコンシュルジュ機能の強化	①長期滞在／ワーケーションの全市的な集約とプロモーション	・戸隠の中社・宝光社地区は特徴的な宿坊も含めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されており、宿坊は、その街並みと合わせ、魅力的な宿泊施設となっている。引き続き、パンフレットやホームページを活用し、長期滞在も見据えた情報発信が必要である。	
		②デジタルマップ等を活用したまちなかの環境配慮型の宿や店舗の宣伝	・善光寺界隈のデジタルマップの利用促進とその機能を活用したヒートマップによる可視化により、観光客の動きを知ることができた。また、携帯キャリアのデータを活用し、御開帳期間中の来訪者分析の他地域への回遊調査を行うなど、人流データの蓄積ができた。今後は、そのデータの有効活用、情報の共有化に取り組む必要がある。	
	(2)長野市の魅力をつたえるコミュニケーション	①Z世代に向けた、環境配慮型観光地としての長野市のプロモーション	・様々なソーシャルメディアを活用したきめ細かなSNS運用により、全体的なフォロワー数や閲覧回数が向上している。特にZ世代をメインターゲットとした情報発信を行ったことにより、Instagramでは、20～30代の割合が増加するなど、ターゲットに向けた効果的な情報発信が出来ている。引き続き、効果的な情報発信に努め、ながのファンづくりを進めていくことが必要である。	
		②SNSを通じたまちなか周遊の楽しみ方の発信	・様々なソーシャルメディアを通じて、イベント情報のほか、天気や市街地の状況、まち歩きに役立つ情報など新たな試みがなされ、観光客の利便性向上に寄与している。今後も効果を検証しながら情報発信を進めていく。	
	政策評価	<p>・様々なソーシャルメディア等を活用したきめ細やかな情報発信により、全体的なフォロワー数や閲覧回数が向上している。引き続き、趣味趣向を考慮しながら、ターゲットを意識したプッシュ型の情報発信に努めていくことにより「ながのファン」を獲得できるように取り組むことが求められている。また、デジタルマップ等による人流データの把握に努め、今後は、そのデータの有効活用や情報の共有化に取り組む必要がある。</p>		

## 政策2 魅力を活かしたインバウンドの推進

政策	施策	実施事業	事業評価
2-1 長野市の 特長的な 資源を活 かしたコ ンテンツ 開発・環 境整備	(1) 歴史・文化、アク ティビティ等の地域 資源を活用した コンテンツ開発	①歴史・文化を楽しむ体験 型コンテンツの開発	・国内の水際対策が緩和されたことにより、実際に海外旅行会社や国内ランドオペレーターを招請したファムツアーを実施する事ができた。今後は、参加者の意見や評価を踏まえて、善光寺の宿坊、松代での伝統体験、戸隠でのスノーシューなど評価の高いコンテンツをさらに磨き上げ、何を売るのが明確にした旅行商品化に結びつけていくことが求められている。
	(2) 冬季のコンテンツ 開発	①冬の魅力が伝わる地域 資源を組み合わせたコン テンツ開発	・海外旅行会社や国内ランドオペレーターを招請したファムツアーの中で、戸隠の冬の魅力を発信する事ができた。今後も引き続き、商品化に向けた働きかけを行う必要がある。
	(3) 広域連携による 周遊コンテンツの 開発	①全市的なデジタル周遊 マップの多言語整備	・インバウンドに対応したデジタルマップ等の多言語化は必須であると言える。引き続き、多言語化への取り組みが必要である。また、長野市のハブ機能を活かし、訪日外国人観光客のニーズに応じて、近隣エリアとも連携した誘客、宿泊増に取り組むことが必要である。
	(4)外国人観光 客が快適に滞在 できる受入環境 整備	①音声ガイドアプリの活用	・これまでの「公衆無線LAN」の設置、スマホなどで視聴できるオーディオガイドの整備のほか、市内の飲食店のベジタリアン、ヴィーガン、ハラル対応等をまとめたサイトや冊子の整備のほか、観光関係者向けにインバウンド対応セミナーを実施している。引き続き、周知や利用促進を図る取り組みが必要である。
	政策評価		・国内の水際対策が緩和されたことにより、急速にインバウンドが回復している。今年度、実施した旅行会社や国内ランドオペレーターを招請したファムツアーからの意見や評価を踏まえ、善光寺の宿坊、松代での伝統体験、戸隠でのスノーシューなど、評価の高いコンテンツをさらに磨き上げ、何を売っていくのが明確にした旅行商品化に結び付けていくことが求められている。そのためには、これまでの受け入れ環境整備の周知、活用促進、ターゲットを絞った戦略的な誘客プロモーションが重要となってくる。

## 政策2 魅力を活かしたインバウンドの推進

政策	施策	実施事業	事業評価
2-2 ターゲットに届く効果的な情報発信	(1) ターゲット市場への情報発信の強化	①海外に向けた地域の魅力の動画発信	・四季を通じて市長が出演し、英語ナレーションも市長自らが行うトップセールス映像を制作し、国内外に発信した。また、国際的な学会や各種コンベンション、長野駅のビジョンでも活用した。今後は、これらの映像コンテンツを活用し、海外へのトップセールス等を実施し、商品造成に結び付けていくことが求められる。
	(2) 他市町村と連携した情報発信	①北陸新幹線沿線及び県内自治体と連携した情報発信	・信越自然郷10市町村の連携による、サイクルツーリズムにおいて、台湾、タイとターゲットを明確にしたファムツアーや旅行会社との商談会を実施した。今後、旅行商品のO T A掲載など、ターゲット国からの更なる誘客に取り組む必要がある。  ・金沢市と連携し、オーストラリアをターゲットに、メディア、旅行会社を対象としたファムツアーを実施した。今後は、戸隠や日本酒体験など興味が高かったコンテンツを取り入れた旅行商品の開発を提案していくことが必要となる。
	政策評価		・台湾やタイ、オーストラリアなど重点ターゲット向けの情報発信の強化として、その国ごとにあった適切なプロモーションが重要になる。サイクルツーリズムや戸隠、日本酒体験など興味の高いコンテンツを取り入れた旅行商品の開発を働きかけ、外国人観光客のニーズに応じて近隣エリアとも連携しながら、さらなる誘客に取り組む必要がある。また、英語ナレーションも市長自らが制作した、長野市の魅力ある四季の映像コンテンツを活用し、現地トップセールスによる商品造成、誘客に結び付けていくことが求められる。

## 政策3 オリピックレガシー等を最大限生かしたコンベンションの誘致

政策	施策	実施事業	事業評価
3-1 コンベンション誘致の強化	(1) コンベンション誘致やエキスカーシヨンの強化	①オリンピック施設等を活用したコンベンション活動の強化	・コロナの規制緩和に伴い、市内のコンベンション開催数は、コロナ前の約7割程度まで回復してきている。北陸新幹線、オリンピック施設など、本市の優位性をPRし、スポーツ大会誘致にターゲットを絞り、引き続き、情報発信と誘致活動に努める必要がある。
	(2) コンベンション参加者への情報発信	①コンベンション等参加者への観光情報の発信と周遊促進策の実施	・コンベンション等の参加者に対して、観光や飲食に関するガイドブック等を配布し、市内での滞在時間延長を図る取り組みを実施している。引き続き、参加者向けに、消費拡大や長野市への再訪を促す仕組みづくりが求められる。
	政策評価		・コロナの規制緩和に伴い、市内のコンベンション開催数は、コロナ前の約7割程度まで回復してきている。長野市の強みである、北陸新幹線やオリンピック施設等を活用したスポーツ大会の誘致にターゲットを絞り、引き続き、他地域との差別化を図りながら情報発信と誘致活動に努める必要がある。また、市内の高等教育機関との連携を図り、地域資源を活かしたエキスカーシヨンを強化するなど、市内の消費拡大や再訪を促していくことが重要となる。

### 政策3 オリピックレガシー等を最大限生かしたコンベンションの誘致

政策	施策	実施事業	事業評価
3-2 地域資源を活かしたフィルムコミッションの強化	(1) フィルムコミッションの強化とロケツーリズムの推進	①ロケツーリズムの推進	・映画やテレビ番組制作を支援し、映像として視聴されることにより、市の知名度の向上、誘客促進が図られている。今後も、ロケーションのデータベース見直しを図りながら、ロケ地のマップ化など計画的にロケツーリズムに取り組む必要がある。
	政策評価	・フィルムコミッションを支援することで、知名度の向上、誘客促進が図られている。今後も首都圏からのアクセスの良さや松代、戸隠など、歴史や自然などの地域資源、サポート体制など強みを活かした誘客を積極的に進めていく必要がある。引き続き、ロケ地のSNSによる発信、マップ化など積極的なロケツーリズムの促進に取り組むことが重要である。	

### 政策4 快適で安全、スマートな観光を実現する基盤の構築

政策	施策	実施事業	事業評価
4-1 DXの推進による快適な滞在環境の構築	(1) 快適に滞在できる環境整備	①キャッシュレス環境の整備に向けた協議、検討	・善光寺御開帳では県外から多くの観光客の皆様にお越しいただいたが、バスを利用する際に、広く普及している交通系ICカードが使用できず、不便だったとの声が多く寄せられた。汎用性のある各種キャッシュレスの導入に向けて、引き続き、情報の収集や支援制度の周知など情報発信を行うことが求められる。
		②M s a aの導入検討、公共交通機関の利便性向上	・善光寺御開帳を契機に、東日本旅客鉄道と連携し、M a s sを導入したことにより、北信エリアの周遊を促すことができた。引き続き、利用エリアやサービスの向上により、利便性の向上と周知を図っていくことが必要である。
	(2) 快適な滞在を提供するためのマーケティングシステムの構築	①顧客データベースシステムの構築及びビッグデータ活用の検討	・デジタルマップ利用者、ながのファンクラブ等から得られる顧客データを蓄積するだけでなく、そのデータを活用し、誘客につなげていくことが求められている。様々なビッグデータの蓄積方法、活用方法を検討し、マーケティングに活かしていくことが求められている。
	政策評価	・Massの導入やデジタルマップ等の作成により、周遊促進や消費につなげることができている。引き続き、デジタルマップ利用者、ながのファンクラブ等の顧客データの取得に努め、そのデータを分析し、趣味趣向にあったプッシュ型の情報発信を促進するとともに、利便性の向上と周遊促進を図り、滞在時間の延長とともに、快適な滞在環境の提供に取り組んでいくことが必要である。	

## 政策4 快適で安全、スマートな観光を実現する基盤の構築

政策	施策	実施事業	事業評価
4-2 災害に強い観光都市基盤の構築	(1) 災害など緊急時の対応力強化	①観光危機管理マニュアルの情報共有、危機管理体制の強化	・訓練で出た課題を検証し、必要に応じてマニュアルを改定するなど、実効性のある危機管理を行うことが重要である。観光事業者などと災害時の対応を共有し、連携を図ることが求められる。
	(2) 安全な観光地づくり	①感染症対策の支援、情報共有	・コロナ禍での感染対策については、県や市の関連部局と連携し、的確な情報発信と情報共有ができた。
		②観光地、観光施設等のバリアフリー化の推進	・持続可能な観光地として、選んでいたためには、誰もが気軽に、安心して楽しむことができるユニバーサルツーリズムの取り組みは非常に重要になってくる。戸隠観光協会では、年齢や国籍、障害の有無にかかわらず、誰もが安心して楽しめるよう、環境整備や人材育成を進め、スキー修学旅行の誘致など先進的な取り組みを実施しており、非常に評価が高い。このような先進的な取り組みが本市の観光地に広がっていくように情報の共有化や啓発を進めていくことが必要である。
	政策評価	・災害時などの緊急時に備えた危機管理体制の構築のため、観光危機管理マニュアルを宿泊施設や公共施設と共有し、必要に応じて改訂する必要がある。また、持続可能な観光地として選んでいただくために、誰もが気軽に、安心して楽しむことができるユニバーサルツーリズムの取り組みは非常に重要になってくる。戸隠での「ユニバーサルデスク」の設置など、先進的な取り組みが本市の観光地に広がっていくように、バリアフリー情報などあわせて、情報の共有化や周知、啓発を進めていくことが求められている。	